釧路市教育委員会　令和３年第１５回９月定例会会議録

１　日時：令和３年９月２９日（水）１３時３０分から１４時５５分まで
２　会場：ＭＯＯ　２階　教育委員会室
３　出席者
　　岡部義孝教育長
（教育委員）
　　山口隆委員、松尾千穂委員、種村俊仁委員、小出美貴子委員
（事務局）
　　大坪学校教育部長、津田生涯学習部長、大山教育指導参事、三富学校教育部次長、
　　早坂学校教育部次長、冨田総括指導主事、澤口生涯学習課長、中村動物園長、
　　鈴木ふれあい主幹、畠山指導主事、渡部指導主事
４　議事録署名人　　種村委員、小出委員
５　傍聴人数　　０人
６　提出案件

【公開案件】
報告事項
（１）令和３年第４回釧路市議会９月定例会の議決結果について
（２）令和３年第４回釧路市議会９月定例会の審議内容について
（３）令和３年度全国学力・学習状況調査における釧路市の結果について
（４）釧路市におけるタブレット端末を活用した不登校児童生徒への支援の考え方について
（５）釧路市におけるＡＮＡ「Blue-Monsters」プログラムの実施について
（６）友好園・台北市立動物園との交流事業の実施について
（７）アミメキリンの仔「コハク」舎の完成及び一般公開について
（８）学校の現状について

７　会議内容

【公開案件】報告事項

（１）令和３年第４回釧路市議会９月定例会の議決結果について

（三富学校教育部次長）

先月の定例教育委員会において承認いただいた補正予算案、及び「生涯学習部の所管する公の施設の指定管理者の指定の件」の議案について、すべて原案どおり可決されたことを報告する。

【公開案件】報告事項

（２）令和３年第４回釧路市議会９月定例会の審議内容について

（大坪学校教育部長）

令和３年第４回釧路市議会９月定例会の学校教育部に関する一般質問の概略を説明する。

公明党議員団　松原慶子議員より、コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動の今後の展開につて質問があり、私から、第２期教育推進基本計画の目標とする導入率、小学校６０％、中学校４０％は達成される見込みである。来年度策定される第３期教育推進基本計画において、その方向を示すことになるが、これまでの取り組みにおいて、学校と家庭・地域との連携や小中学校間の連携の強化を図られたことなどを踏まえて、全ての学校への導入を視野に入れて積極的に導入を進めていくとお答えした。

次に、自民市政クラブ　金安潤子議員より、市長に対して釧路市の教育をどうしていこうと考えているか質問があり、市長より、教育に対する私の思いとしては、世の中において最も尊いものと捉えている。学力など様々なものがある中で、どのように整理していくかが重要であり、色々なことを考えていく思考能力も必要である。そういった力は学校の現場だけでなく、家庭や地域においても取り組んでいくことが重要である。子どもたちは、発達段階に応じて様々なことを学んでいくので、学校の先生方が現場の中で、子どもたちの姿を見ながら進めていくことが重要であると考えているとお答えした。

次に、新創クラブ　大越拓也議員より、コロナ禍におけるＩＣＴを活用した新たな交流ついて質問があり、私から、学校施設にＩＣＴ環境が整備されたことにより、朝陽小学校におけるパラリンピックベトナム選手団との交流や、鳥取小学校と鳥取市賀露小学校との姉妹都市交流など、オンラインを活用したリアルタイムでの交流という新しい手法で、遠隔地の方々と関わり、学びを深めることができているものと捉えている。今後もオンラインを活用した交流について、様々な先進事例を参考にしながら、その可能性を探ってまいりたいとお答えした。

次に、自民市政クラブ　続木敏博議員と市民連合議員団　岡田 遼議員より、コロナ対策の現状と今後について質問があり、私から、現状においては手指消毒やマスクの着用はもちろんのこと、毎朝の児童生徒の健康観察の実施、換気の徹底、身体的距離の確保など、「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」に基づいた感染防止対策を講じている。今後については、これまで以上に対策を徹底しながら、今後導入予定の二酸化炭素測定器の活用や、感染症対策を目的

に購入した空気清浄機等を十分に活用しながら、感染防止対策の徹底に努めてまいりたいとお答えした。

次に、日本共産党議員団　工藤正志議員より、校則の課題について、児童生徒の意見、保護者や教員の声もよく聞いて、改善が必要と判断した場合には校則の改善が必要ではないかという質問があり、私から、市内小・中学校や北陽高校の校則については定期的に確認、把握をしており、現況、いわゆる「ブラック校則」に相当するものはないと認識している。また、時代の変化や学校を取り巻く社会環境、児童生徒の状況の変化に応じて、絶えず積極的に見直す必要があるとも捉えており、各学校においては、これまでと同様に児童生徒が主体的にかかわりながら、児童会、生徒会、学級会などの場において話し合う機会を設け、見直しを進めていくことが重要であるとお答えした。

次に、釧路に新しい風　森　豊議員より、通学路の安全対策について、国は各市町村教委に対し、９月末までに小学校の通学路を道路管理者などと合同点検するよう求めているが、釧路市の予定について質問があり、私から、９月９日に道路管理者、警察、地域、保護者、学校関係者で構成されている釧路市通学路安全対策連絡協議会を開催し、今後の合同点検に向けた協議を行う予定となっているとお答えした。

次に、公明党議員団　月田光明議員より、公立夜間中学の課題について、学び直しの機会を必要としている方たちのことを思えば、いたずらに先送りせず、着実に準備していかなくてはならない。これを受けて、文部科学省初等中等教育局長名で、「夜間中学の設置・充実に向けた取組の一層の推進について」という通達が発信された。その中で、全都道府県及び指定都市への設置だけでなく、都道府県内複数個所の設置に言及したものと受け止めたが、教育長の認識を示してほしいとの質問があり、教育長より、本年１月の衆議院予算委員会における総理の答弁は、「今後５年間」という一定の期限を設けた中で、各都道府県に少なくとも一つ、すなわち複数の配置を求める旨を改めて明らかにしたものと認識しており、２月の文部科学省の通知も同様の趣旨であると受け止めている。一方、北海道では、令和４年４月に道内初の公立夜間中学が札幌に開校するが、開校後の展開について、道教委から「自主夜間中学がある函館市、旭川市、釧路市とも連携を深め、各地域におけるニーズや課題などを丁寧に把握し、地域の実情に応じた設置のあり方を検討する」と、複数設置を検討するとの考え方が示されており、この考えは私も同様であるとお答えした。

最後に、日本共産党議員団　梅津則行議員より、「現在の新型コロナウイルス感染流行下での学校活動について」という提言が日本小児科学会から出され、布マスクではなくて不織布のマスクを奨励している。経済的負担軽減のため、子ども用不織布マスクの無償提供を考慮すべきと考えるが、市の認識と取り組みを示してほしいとの質問があり、私から、マスクの素材ごとの効果の違いと、布マスクであっても、すき間なく正しい方法で着用し、１日１回、洗濯するなどの衛生管理を徹底することにより、感染予防対策上、十分な効果があることを周知するよう文部科学省や道教委が指導している。

教育委員会としては、保護者に対してこれらの情報を発信していくことが、重要なことと考えているとお答えした。

（津田生涯学習部長）

令和３年第４回釧路市議会９月定例会の生涯学習部に関する一般質問の概略を説明する。

市民連合議員団　板谷正慶議員より、アーバンスポーツの可能性について、どのような見解を持っ

ているかとの質問があり、私から、スケートボードなどのアーバンスポーツについては、今回の東京オリンピックにおいて正式競技となり、日本人選手の活躍もあったことなどから、今後の動向が注目されるべきものであり、市内で利用できる施設の情報発信に努めていきたいとお答えした。

次に、新創クラブ　大越拓也議員より、コロナ禍におけるＩＣＴを活用した新たな交流として、教育行政方針で述べた、友好園 台北市立動物園とのオンラインを活用した取り組みの進捗状況を示してほしいとの質問があり、私より、ウェブ等を活用し、台北市立動物園へ貸与したタンチョウ（ビッグとキカ）の様子を写した動画の放映や、写真を展示するなどの企画を動物園で考えており、現在、台北市立動物園側と調整しながら検討を進めているとお答えした。

次に、日本共産党議員団　村上和繁議員より、新型コロナウイルス感染症拡大により直接参加できなかった人のために、１年遅れの成人式を行ってはどうかとの質問があり、私より、今回の対象者に限って改めて開催することはなかなか難しいものと考えるが、管外からの参加を予定されていた方をはじめ、参加できなかった思いも十分斟酌したうえで、２０２２年１月の式典のあり方とともに検討してまいりたいとお答えした。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

（山口委員）

板谷議員のアーバンスポーツ施設の質問と、大越議員の人口減少に伴う学校のあり方検討委員会の今後の見通しの質問について、小学校における同好会活動、スポーツ少年団活動、中学校の部活動については、単独チームができず合同チームが多くなっていることを考えると、関係団体も多く調整は難しい面もあると思うが、学校の適正配置と子どもたちの課外活動、とりわけスポーツ活動をどのように保障していくか。最終的には地域で子どもたちを支えていく、地域に受け皿を作って継続的な活動を保障していくことも、今後検討課題になると考えている。このような事も含めた全体のデザインがこれから必要となると感じたので意見として参考にしてほしい。

【公開案件】報告事項

（３）令和３年度全国学力・学習状況調査における釧路市の結果について

（畠山指導主事）

８月の定例教育委員会に速報として報告した今年度の全国学力・学習状況調査について、その後、検証を加え釧路市の小・中学校の全体的な傾向をまとめたので報告する。

内容・領域別平均正答率について、全国平均を「100」としたレーダーチャートを作成した。各教科の状況と指導改善のポイントは、例年同様、正答率が高かった問題、課題が見られた問題について、代表的なものを取り上げるとともに、担当の先生方が今後の指導に活かせるよう「学習指導に当たってのポイント」を記載している。

小学校国語における分析結果では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、全国・全道平均とほぼ同程度の正答率であったが、同じ２の設問の三・四については、全国・全道平均をやや上回ってい

るものの、「目的に応じ、必要な情報や中心となる語や文を見つけたり、要約したりすること」を苦手としている児童が多くいる。

本報告書では取り上げていないが、「書くこと」の設問は、二問とも全国平均を上回り、特に記述で解答する問題で全国平均を大きく上回っており、これまでの継続した取り組みが成果として現れた考えている。

中学校国語は、話すこと・聞くこと領域の「話合いの話題や方向を捉えること」はよくできていたが、「文章を読み、自分の考えを条件に合わせて整理し、記述で解答すること」は全国・全道平均を正答率で上回っているものの、無解答率が高く課題が見られる。

小学校算数は、「棒グラフの読み取り」や「条件に合う時刻を求めること」はよくできていたが、「三角形や四角形の面積」や「帯グラフ」のように、図形の構成に着目し、複数のデータを比較しながら、言葉や数を用いて記述で答えることを苦手にしている児童が多くいる。

中学校数学は、「データやグラフを適切に読み取ること」はよくできているが、「数学的な表現で説明すること」等に課題が見られる。数と式の領域は、全体的に全国平均を下回っており、同じように「数学的な表現で説明すること」の設問で課題が見られる。

教科に関する調査と、児童生徒質問紙の結果とのクロス集計から見られる、正答率が高かった子どもの特徴は、「１日当たりのテレビゲームの利用時間が短かい」、「人の役に立つ人間になりたい」と考えているほうが高いという特徴があった。

児童生徒質問紙における肯定的な回答を全国平均と比較すると、中学校では学習環境や学習習慣、自己有用感等に関する部分に課題が見られる。このほか、経年変化で分析すると、１日当たりのテレビゲームの利用時間の増加傾向が見られ、全国に比べると読書時間が少ない・しない児童生徒が依然として多い傾向があり、家庭・地域も巻き込んだ取り組みの一層の強化・充実が必要であると考える。

この結果を踏まえ、各学校において学力向上プランの見直し、改善策を検討しているところであり、この後、分析結果と課題や改善策などをまとめ、学校全体の概要について保護者に周知する予定である。

学校指導担当では、各校１名以上が参加する学力向上セミナーにおいて、釧路市の傾向等を説明し、授業改善のポイントを示した。

今後は、１０月から学校訪問指導における研究授業の公開が本格的に始まるため、その際、授業改善のポイントを先生方に直接伝えるとともに、研究センターの研修講座など、様々な機会において指導・助言してまいりたいと考えている。

また、例年同様、道教委において基本のフォーマットでの市町村別公表を行うことにとなっており、本市も公表に同意したので、北海道教育委員会及び釧路市教育委員会のＨＰにも掲載する予定となる。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

（岡部教育長）

速報段階から、小学校はかなりの良いレベルで、中学校は引き続き課題を残す結果となったことはお伝えをしているが、教育委員の皆さんには、今回の結果と現在実施している全ての中学校訪問にお

いて、お気づきの点があれば是非発言いただきたい。

（山口委員）

訪問は残り４校となり、来月の上旬までに終わるよう訪問している。

教育委員が中学校を訪問する目的は、今求められる授業改善が、旧態依然とした授業に終始している教員が多く、小学校と比べて遅々として進んでいない問題があるので、実情がどうなっているのかを確かめて、自分たちに何かお手伝いできることがないのかという視点で訪問している。

今までは、テストで何点とるか、受験のためにどのような力を身につけさせるか、知識、理解を中心とする一斉画一的な教え込む授業をする先生、とりわけベテランの先生の中に多くみれられるが、実際に訪問して多くの先生の授業を見る中で、今求められている「主体的・対話的な深い学び」を指向する授業改善を、積極的に取り組んでいる先生も確実に増えている。

しかし、学校内や他の学校の同じ教科の先生方の交流の輪が広がっていない問題が顕著に出ている。

困難な面も感じるが、一斉画一的な授業に固執するベテランの先生方を、覚醒させるためのアプローチを何とかしなければ、中学校の授業改善は進んでいかないのではないか。

説明にもあったが、これから求められる子どもたちの資質、能力が本当に身についているかを、テストの中で確かめようとする高校入試、大学入試問題の傾向へ変わってきているので、それが「説明する」などの部分が解答できていないと、結果に結びついてくる。

テストで何点とるかではなく、根本的に考え方を改めていかなければならない、そのために校長には更に奮起してもらいたいというメッセージを、各学校で伝えながら訪問させていただいている。

訪問終了の際には、教育委員が感じた事をお礼と共にメール配信してもらう予定になっているので、そこで各校長に真意が伝わるか、その真意を受け止めて、各先生方へ積極的に強いリーダーシップを発揮して働きかけてもらえるかがポイントになりそうな気がしている。

（種村委員）

初めて中学校の授業を参観したが、学校の方針として生徒を中心とした主体的な授業展開となっていて、技量を発揮していて引き込まれる授業をする先生とそうでない先生がいた。

本来の、先生があまりしゃべらず、生徒たちに意見を話してもらう授業としては、確かに足りない部分もあるが、先生自体はしっかりと生徒に向き合い、一人一人に答えさせて授業が盛り上がっているものもある。先生による濃淡はあるかもしれないが、全体的には釧路市の学校現場はしっかりやっている印象を受けた。

学力調査の平均点が低いので、よほど教え方がいまいちと思っていたが、そのような事は無く、むしろどこが足りないのかを知りたい。

（小出委員）

保護者向けの授業参観以外で色々な先生の授業を見ることが初めてなので、勉強させていただこうということで訪問したが、プライドを持って生徒と向き合って授業をしている先生がたくさんいることが分かって良かった。その中でも体育の授業で素晴らしい授業があり、得意な子も苦手な子もみんなが楽しめるように先生自身でルールを工夫して授業を組み立てていた。

生徒のために工夫する姿勢が特別支援学級でいう合理的配慮に通じるものがあり、普通学級でもそのような姿勢で子どもに向き合って授業するということがとても大事である。どの子も主役になれて

疎外感を受けずに学校生活を送れる意味では、授業以外の教育活動に生かし、先生が共有することで、学校という社会に子どもたちが楽しく通えるのではないかとすごく感じた。

児童生徒質問紙の結果を見ると、小学校では全国と比較してプラスになっているものが、中学校になるとマイナスになる項目が多く、色々なことに消極的になっていることが見える。

思うように先生方もいかず、生徒の心の成長もあってこういう結果になっていることもあるので、先生たちが子どもと向き合って接してくれることで、少しでも改善できたらと思う。

授業に向かう気持ちみたいなところを先生とみんなで共有して、子どもたちが少しでも前向きな気持ちで学校に通えるようになれば、勉強しようという気分になり、生徒の気持ちを勉強に向かわせる環境作りも大切だと改めて思った。

（松尾委員）

生徒が勉強に向かう態度は決して嫌がっておらず、前向きに勉強する意識を持って先生に向かっていると感じた。タブレット端末も色々な教科で使われており、上手に活用されている。

教育委員が訪問することが、先生方にとって見直すチャンスになっていればありがたい。また、資料等を作成していただき学校の皆さんに感謝する。

（山口委員）

タブレット端末の活用状況も訪問の目的ではあり、予想以上に取り組んでいる状況が見れた。上手に活用している学校もあったので、全ての学校のスキルが向上し、授業には欠くことができない機器として定着していくのではないかと感じている。

（岡部教育長）

これまで、平時に教育委員が学校を訪問することは無かった。私も１学期中に全ての小中学校を訪問しており、指導主事の先生も今年度はより学校を訪問する機会を拡大するなど、かつてないぐらい教育委員会の関係者が学校を訪れている。

私の感想も同じで、非常に一生懸命にやる先生もいれば、もう少しと思う先生もいるが、学校内で同じ意識に立つという部分が足りないと感じてる。

（山口委員）

教育委員会が訪問することへの学校の受け止めは、学校と教育委員会が力を合わせてやろうという思いとして、校長からは概ね好意的に受け止められている。

【公開案件】報告事項

（４）釧路市におけるタブレット端末を活用した不登校児童生徒への支援の考え方について

（大山教育指導参事）

８月の校長会議で、不登校児童生徒の支援の基本的な考え方とタブレット端末の活用について、各校長へ提案して意見をいただいた。

不登校児童生徒数は毎年増加しており、令和元年度には２９２名になっている。市教委としては重要課題であると受け止め、対応を進めている。その一つとして教育行政方針にも示した通り、タブレット端末を活用した学習保障についてモデル校を中心に試行し、１学期の１次訪問でその成果と課題

を聞き取り、支援の考え方をまとめた。

支援の基本的な考え方は、要因は様々であるが児童生徒の立場に立って支援に努めること。支援の目的は「学校復帰」だけではなく「その子なりの居場所を見つけて社会生活につなげること」にあり、「登校支援」から「自宅での学習支援」まで幅広く考える必要がある。

したがって、タブレット端末を使った支援は、「オンライン授業」による学習保障と「オンライン支援」による健康観察、生活支援、学習相談など幅広く想定している。

現在、支援の場になっている「在籍校」「青空学級」「さわやか学級」「ふれあい教室」「こども家庭支援センター」において随時実施ができるよう準備を進めていく。

今年度については、各学校で「別室登校」している児童生徒へのオンライン授業を具体化するとともに、学校から自宅へのオンライン授業や青空教室へのオンライン授業を試行する予定になっている。また、不登校が長期化している児童生徒には、ふれあい教室からのオンライン支援が可能かどうかの検討を進めることにしているが、初めての試みあり児童生徒の状況や家庭環境を十分に把握して支援に努めたいと考えている。

不登校児童生徒に向けた施策として、学校が不登校の未然防止に努めることができるよう、その対応の仕方を具体的に記した「不登校ハンドブック」の作成に着手しており、「さわやか学級」「青空学級」「ふれあい教室」についても、オンラインによる支援も含めた再編を計画している。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

（岡部教育長）

今議会でも指摘されたが、不登校の児童生徒数は増えており、現在のコロナ禍の影響も含めて全道的にも増えている中で、ＧＩＧＡスクールとタイミングを合わせて、ＩＣＴを活用した新たな取り組みを進めていくことを中心とした考え方になっている。

（山口委員）

登校支援から自宅での学習支援まで幅広く考えていく必要があるということは、まさにその通りである。受け皿として整備されているさわやか学級、青空学級、ふれあい教室の相互の連携が必要だと感じていたので、是非この部分は再編も含めて、子どもたちにとってより良い受け皿となるような整備を進めていただきたい。

（松尾委員）

不登校の原因は色々あるが、家庭環境も大きな問題かと思う。例えばタブレットを持って帰っても、小学生の低学年は保護者の協力がないと上手くいかない部分もあるので、保護者との連携もしっかり行ってほしい。

ところで、不登校の原因の中でヤングケアラーはいるのか。

（冨田総括指導主事）

ヤングケアラーである児童は数名いるが、不登校児童の中に該当する児童がいるかは把握していない。

【公開案件】報告事項
（５）釧路市におけるＡＮＡ「Blue‐Monsters」プログラムの実施について

（冨田総括指導主事）
ＡＮＡ「ブルーモンスターズ」プログラムは、ＡＮＡグループに在籍する社員アスリートを講師とし、スポーツを通じて、子供たちが「ワクワク」や「夢中」を探し、自分らしい未来を実現することを目指した、個性重視型プログラムのことである。
教育委員会は今年度キャリア教育の充実を掲げており、このプログラムを活用して子供たちのために何かできないか、ＡＮＡホールディングス担当者とこれまで検討を進めてきた。
そこで今年度は、アイスホッケースマイルジャパンの選手である床亜矢可、床秦留可姉妹が、釧路市立昭和小学校の出身であることをきっかけとし、同校５年生の総合的な学習の時間において「釧路市の魅力について考え、表現し、発信する」という活動を試験的に計画したところである。
９月２１日には、その１時間目として、実際に床姉妹にも来釧いただき、自己紹介などする中で「釧路市の魅力、良さ」について考えていくというテーマ発表を子どもたちに行った。子どもたちはたくさんの質問をする中で、これからの活動に期待を膨らませていた。
これから来年１月までの長期に渡り、総合的な時間の学習活動の中で、釧路市の魅力について調べ、考え、まとめていきながら、自分たちが住んでいる釧路市の良さに改めて気づいたり、また働くことの意義について考えたりする機会となることを期待している。
また、この学習では、最終的にタブレット端末により「釧路市の魅力のチラシ」を作成する予定となっていることから、教育委員会としては市の観光振興室等とも連携を図りながら、子どもたちの調べ学習がより良いものとなるようサポートしている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

（山口委員）
先ほどの子どもたちの意識調査の中では、地域の行事への参加したことがあるという回答が少なかった。それと合わせて、自分たちが生まれ育った故郷の良さに気づくことは、地域とどういう関わりを持って子どもたちが育っているかも大きな部分になっていく。
是非、コミュニティ・スクールの推進と合わせて、地域全体で子どもたちを支える、子ども側からは、先生、親、地域の方々皆に支えられて成長できているということを実感しながら成長することが、故郷に対する愛着や良さを発見することに繋がると思う。
なぜこのような話をしたかというと、以前、秋田県角館市に桜を観に行った時、地元の小学生が桜まつりの会場で観光客の方に、自分たちが生まれ育った角館の歴史や文化について、自分たちでまとめたものをプレゼンする大変すばらしい取り組みを見かけ、釧路市の子どもたちにも同じことができないかと感じていた。今回の取り組みが結びついている気がしたので大事に育てほしい。
（冨田総括指導主事）
発信するということが大切だと考えており、ＡＮＡと話をする中で、子どもたちが作成して調査し

たことをどのようにアピールしていくか意見が出され、釧路空港で放送されることにと子どもたちのモチベーションがとても上がった。
　今後も、この取り組みが拡大できないか引き続き協議をしていく。

【公開案件】報告事項
（６）友好園・台北市立動物園との交流事業の実施について

（中村動物園長）
　２０１１年９月、台北駐日経済文化代表処札幌分処の開設にあたり、台湾より北海道との「友好の印」として、また、釧路市動物園と台北市立動物園の学術交流を目的として、タンチョウの繁殖のための寄贈要望があり、釧路市動物園から台北市立動物園へ２羽のタンチョウ「ビッグ（オス１４歳）」と「キカ（メス１１歳）」を無償貸与した。
　２羽のタンチョウを貸与してから今年で１０年の節目となることから、１０月３日に行う動物園の開園記念イベントに合わせ、園内で交流事業を実施する。
　内容としては、台北市立動物園との交流のきっかけとなったタンチョウ「ビッグ」と「キカ」の２羽を貸し出した当時の動物園長　山口良雄氏による当時のエピソードなどを交えた講話のほか、学芸員によるタンチョウに関するワークショップやタンチョウガイドを行う。
　また、台北市立動物園から「ビッグ」と「キカ」の写真を提供いただき、動物園内で展示するほか、写真をつなげて動画にしたスライドショーを流す予定となっている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

（山口委員）
　貸与から１０年を経過して、繁殖が成功したとの報告が聞こえてきていないが、現在の状況はどのようになっているのか。
（中村動物園長）
　卵は生まれるが残念ながら全て無精卵ということで、繁殖には至っていない状況である。

【公開案件】報告事項
（７）アミメキリンの仔「コハク」舎の完成及び一般公開について

（中村動物園長）
　本年４月から７月まで実施したクラウドファンディング型ふるさと納税による寄附金を財源の一部として活用し、現在整備中の「コハク」舎については、工事が順調に進んでおり、その様子は動物園ホームページでも随時お知らせしているところである。
　この度、１０月中旬に「コハク」舎が完成することから、一般公開を実施する。
　スケジュールは、一般公開前日の１０月２３日に、今回寄附いただいた釧路市内在住者の中で、観

覧を希望する方のみに限定して室内及び放飼場を公開し、飼育員のガイドを行う。
　これは、ふるさと納税の制度上、釧路市内の方には返礼品を贈ることが認められていないことから、このような形で感謝の意を伝えるため、「コハク」舎を使用する前に観覧の機会を設けた。
　また、一般の来園者に向けて、１０月２４日に室内及び放飼場を公開する。なお、２５日からはコハクの移動準備のため室内は非公開とし、放飼場のみ１０時から１４時まで出入自由として公開する。
　コロナ禍での実施のため、密にならないよう室内は人数制限などの対策を講じながら行う。
　コハクの新獣舎への移動日は、一般公開が終わった後の１０月３０日以降を予定しており、確定次第、動物園ホームページなどにより周知する。

◎この議案について、各委員からの発言なし。

【公開案件】報告事項
（８）学校の現状について

（大山教育指導参事）
　「学力向上推進委員会」が初めて大館市の授業マイスターとの交流を行った。大館市では、一部の教員が授業マイスターを目指している訳ではなく、すべての教員が、大館市が目指している授業改善に取り組んでおり、校長先生方には推進委員が何を望んでいるのか考えてほしいとお願いした。
　１点目はコロナに関する道教委の通知について、新聞等で「何人感染すると何日学級閉鎖をすることになる」という報道がされていたが、これは陽性者の増加によって保健所業務が逼迫し、疫学調査が遅延した場合の対応についての通知である。学校には、保健所が逼迫した場合でも市教委がかかわるので必ず相談するよう伝えた。
　２点目は、オンライン学習について、夏休みにタブレット端末の持ち帰りを中止した課題は、システム上は市教委で、児童生徒への指導上は各学校で指導し解決している。
　先日報道されていた町田市で発生した、タブレット端末に起因するいじめ問題へのシステム上の課題は解決している。しかし、今後もシステム上の課題や情報モラルの指導には、十分注意したいと考えている。不明な点があれば担当の指導主事がいるので質問していただきたい。
　持ち帰りの課題が概ね解決したので、２学期から各学校でオンライン学習について検討するようお願いした。すでに校内でオンラインの練習や、午後からタブレットを自宅へ持ち帰り、オンライン学習を行うなど工夫している学校が多くある。
　１１月には全市一斉のオンライン学習をする予定になっているが、システム上の課題があるため、どのように実施するかを検討中である。
　３点目は、授業改善について、８月～９月にお願いした課題について、特に板書については１１月末までに改善するようお願いした。各学校では経営訪問、指導主事訪問の中で、８月～９月の課題について解決している学校が多くなっていると押さえている。また、１０月～１１月の重点は、中学校は「教科部会」を機能させること。小・中学校で共通の課題として、「校内の世論を喚起する方法」を参考に、各学校で具体的な方法を実行するようお願いした。

繰り返しとなるが、校長先生には教員個々の授業力を評価して指導するようお願いしている。
加えて、授業マイスターレベルではなくても「校長先生から見て授業が上手だと思う先生」を挙げていただくようお願いしている。
４点目は、全国学力・学習状況調査について、毎回ですが、課題は中学校にあることは明白であり、そのことを中学校のすべての教員が自覚して取り組みを進めるようお願いしている。
これまで各学校でバラバラだった結果公表について、今年度から結果公表の様式を統一して、わかりやすく保護者や地域の方に知らせることにした。
最後に「プロジェクト JACK」討論会のパンフレットの配布のお願いと、延期になっている釧路工業高等専門学校とのＣＯ２測定器の製作講座については、緊急事態宣言が終わったのでこれから実施したい。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

（山口委員）
タブレット端末について、先生の能力よりも子どもたちの機器への対応力が高く、教育委員会や教員が後追いして対応する状況も予想される。学校と連携して継続したチェック機能を発揮していただきたいと要望する。
次に、校長先生から見て授業が上手だと評価している先生を報告した後の活用について、自校での授業改善を組織的に進めていくことは大前提ではあるが、学校によっては自校に対象とする先生がいないため、他校へ見学に行ったり、自校に招いたりと他校との交流に力を入れている学校があると聞いている。
新しい可能性を秘めた先生方は、同じ教科の一見の価値がある先生の授業を見て学ぶ、その先生の取り組みを聞いて学ぶ、こういう機会を増やしていくことも一人一人の先生方のスキルアップに繋がっていくと思うので、教育委員会からの情報提供と合わせて校長先生方の連携ができれば、課題となっている学校の授業改善、活性化に別角度からアプローチできるのではないか。
（渡部指導主事）
タブレット端末のチェック機能に関して、その都度、学校から情報を頂きながら、業者に依頼をして情報共有を行い、学校とも連絡を取りチェックしながら進めているが、想定していないことが発生することも考えて情報共有をしっかり行い、チェック機能を果たしていきたい。
（大山教育指導参事）
授業が上手だという先生の報告をさせる理由について、授業マイスターの候補者のこともあるが、管理職の中には、自分の学校に報告できる授業が上手い先生はいないと決めつけている者もいるので、自分の学校の先生を育ててほしいという意識で名前を挙げてもらっている。
何人もの先生を挙げてくる学校と一人も挙げてこない学校があるので、まずは校長先生の授業を評価するレベルを詰めていく必要があると考えている。
（山口委員）
マイスターの先生がその他の先生方から見て、特別なものになってしまうと元も子もないので、

できるだけ開かれ、誰にでも援助でき、周りからも受け止めてもらえるような謙虚さも含めて育っていって欲しい。

（大山教育指導参事）

マイスター制度については、委員ご指摘のようなことにならないよう、様々な事案に対処して育てていきたいと考えている。

（小出委員）

授業参観の際、先生の板書に色チョークを使用しているが、緑色の黒板に青色は見えづらかった。

ユニバーサルデザインや色の見え方をどの程度把握されているか気になった。

（冨田総括指導主事）

基本的には考えて板書しており、色弱の子どもや、光が当たっても見えるよう発色の良いチョークを活用している。授業改善を行っているグループの中では、毎回板書を写真に撮ってどのように板書を改善していくか取り組んでおり、チョークの色使いについても大事な視点なため、機会があれば指導していきたい。

（種村委員）

授業を見せていただいたが、先生方の字が綺麗な印象を受けた。板書の練習などはしているのか。

（冨田総括指導主事）

初任者の先生は板書の指導を受けているので、放課後に練習しており、意識している先生が多いが、指導が必要な先生がいるのも事実ではある。

左利きの先生の場合は、ノートを取りやすいように体勢などを工夫している。

板書はその授業のゴールなので、ゴールが見えている先生は授業が上手である。

（山口委員）

板書と発問は不易なものである。

（冨田総括指導主事）

板書はノートに取るものなので、子どもたちがノートで振りかえられるものでないといけない。